株式会社 サンウッド新潟
DX宣言書

2026年10月20日
株式会社 サンウッド新潟
代表取締役社長 富井 孝幸

❑ 経営理念

人に優しく　自然に優しく

❑ DXビジョン（2～3年後にありたい姿）

現場・顧客の情報をデジタルでつなぎ、業務の効率化と標準化を進めることで、社員一人ひとりが家づくりに一層注力できる環境を整え、地域の暮らしを長く支え続ける会社を目指します

❑ DX戦略・施策

➢ フェーズ1（現在 ～ 2027年3月）

戦略　「デジタル化に向けた業務整理と情報管理基盤の整備」

施策
- 業務負担と改善余地を把握するために、日報、勤怠および原価管理業務の作業工程・所要時間を可視化
- 自社に適したシステムを選定するために、導入候補システムの機能や連携方法を比較検討
- 円滑なシステム移行に向けて、既存の顧客データを精査し、移行対象データを整理
- 計画的な人材育成を進めるために、職種別の業務内容と必要な能力を整理
- 施工実績や見学会、社員の働き方に関する情報を継続的に発信するため、AIや外部人材を活用した情報発信の仕組みを構築

➢ フェーズ2（2027年4月 ～ 2028年3月）

戦略　「システム導入による業務の効率化および標準化」

施策
- 入力・集計業務を効率化するために、日報を電子化するとともに、勤怠管理システムを導入
- 必要な情報を迅速に確認できるよう、顧客情報や図面、施工履歴を一元管理するシステムを導入
- 社員の成長と組織力の向上を図るために、人事評価結果や保有資格、育成履歴を一元管理し、人材配置や育成計画に活用
- 効果的な情報発信を実現するために、SNS等による情報発信の閲覧状況や反応を分析

➢ フェーズ3（2028年4月 ～ 2029年3月）

戦略　「蓄積データを活用した業務改善サイクルの定着」

施策
- 顧客との継続的な関係構築を図るために、蓄積した施工・点検・修繕履歴を活用し、適切な時期に案内やフォローを実施
- 業務改善を継続的に進めるために、業務時間や作業状況を分析し、改善テーマを設定・実行するとともに、その効果を検証

❑ DX推進体制

- 代表取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

❑ DX推進目標

- 残業時間削減率　：　2026年度比 20%（～2028年3月）
- 紙使用量削減率　：　2026年度比 20%（～2028年3月）

第四北越銀行